CPO Oracleデータベースの重複サブネットワーク

内容

[概要](#)
[前提条件](#)
[要件](#)
[使用するコンポーネント](#)
[背景説明](#)
[重複するサブネットワークTestDwdm](#)
[解決方法](#)
[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Oracle Databaseを使用してCisco Prime Optical(CPO)の重複サブネットワークをクリアする方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- CPO
- UNIXコマンド

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

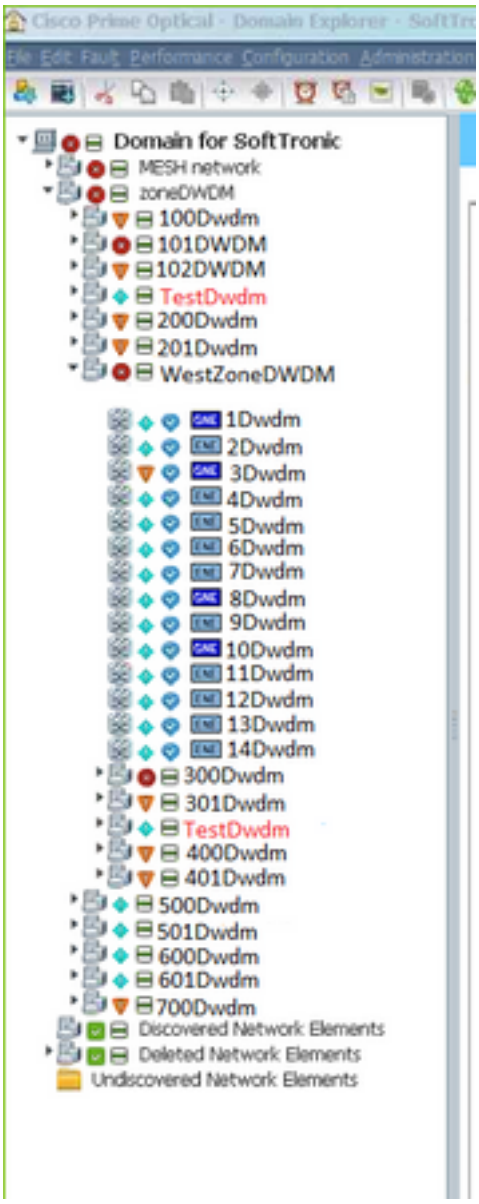
背景説明

この問題は9.6.3ソフトウェアリリースで発生する可能性があり、CPOの別のグループの一部であるサブネットワークが誤って作成された場合に発生します。

ここで使用されるCPOのソフトウェアバージョンは次のとおりです。9.6.3 Server:9.6.3 Build:403 Patches:4（大）。

重複するサブネットワークTestDwdm

問題（例）：サブネットワークTestDwdmが重複している場合は、図に示すように削除する必要があります。



図から、サブネットワークTestDwdmはzoneDWDMグループおよびWestZoneDWDMグループの下で使用できることが分かります。

> **注**：重複するサブネットワークはWestZoneDWDMグループの下にあります。

Oracle DBにログインして、WestZoneDWDMグループからサブネットワークTestDwdmを削除する必要があります。

解決方法

重複するサブネットワークをクリアする最初の方法：

ステップ1：重複するサブネットワークを選択し、[編集]をクリックします。

ステップ2：編集から**削除**を選択**します。**(複製サブネットワー**ク> EDIT > DELETEの順に選択**)。

場合によっては、前述の手順でCPOから重複するサブネットワークを削除しても、CPOを更新すると再び表示されることがあります。

その場合、次の手順に従ってサブネットワークを削除してみてください。

ステップ1：複製されたサブネットワークを開くには、サブネットワークをダブルクリックします。

ステップ2：複製されたサブネットワークのすべてのノードを選択し、右クリックしてノードをアウトオブサービスとしてマークします。

ステップ3:CPOの[Edit]タブからノードを1つずつ削除します。

> **注：**アクティブなサブネットワークと重複したサブネットワークからノードが削除されるため、[Edit]タブから[delete all]オプションを選択しないでください。
> 場合によっては、これら2つのオプションが機能せず、その場合はOracle DBにログインして重複するサブネットワークを削除する必要があります。

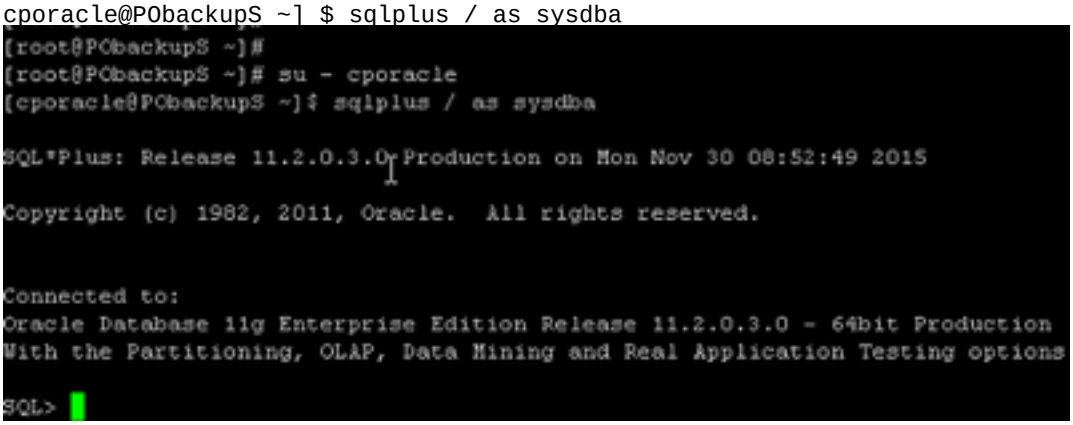
> これは既知のバグであり、この問題をクリアするための手順は、前述の例を参照してここに説明されています。

この例では、Oracle DBにログインして**WestZoneDWDMグループ**からサブネ**ットワーク** TestDwdmを削除する必要があります。

Oracle DBにログインして重複するサブネットワークを削除する手順 (各ステップのスクリーンショットも添付) :

ステップ1：図に示すように、Oracleデータベースにログインします。

```
root@PObackupS ~] # su - cporacle
cporacle@PObackupS ~] $ sqlplus / as sysdba
```



ステップ2：図に示すように、コマンドを使用してグループ名からグループIDを取得します。

SQL> select groupid from group_info_table where groupname=<重複したサブテンドグループ名>;

```
SQL> select groupid from group_info_table where groupname= 'TestDwdm';

   GROUPID
----------
      -143
```

この手順は、重複するサブネットワークに割り当てられたグループIDを検索するために使用します。

> **注**：この例では、グループ名はTestDwdmです。適切な重複するサブテンドグループ名を入力する必要があります。

コマンドの実際のフォントサイズは、指定した例とは異なる場合があります。

ステップ3：図に示すように、グループIDからPARENTIDを取得します。

SQL>select * from domain_table where childid=<GROUPID>;

```
SQL> select * from domain_table where childid=-143;

TREENODEID PARENTTYPE   PARENTID  CHILDTYPE    CHILDID
---------- ---------- ---------- ---------- ----------
       605          2       -110          2       -143
       870          2       -124          2       -143
```

この場合、2つのサブネットワーク（元のサブネットワークと1つの重複サブネットワーク）があるため、これら2つのサブネットワークはそれぞれ異なるPARENTIDを持ちます。

> **注**：143は、ステップ2から派生できるCHILDID（グループID）です。これはケースによって異なります。

ステップ4：図に示すように、ステップ3で取得したPARENTIDからグループ名を検索します。

SQL> select groupname from group_info_table where groupid=<PARENTID>;

```
SQL> select groupname from group_info_table where groupid=-110;

GROUPNAME
------------------------------------------------------------
zoneDWDM

SQL> select groupname from group_info_table where groupid=-124
  2  ;

GROUPNAME
------------------------------------------------------------
WestZoneDWDM
```

これは、どのPARENTIDがどのグループに属しているかを確認し、重複するサブネットワークを見つけ、それに応じて削除するためです。

注：この場合、このコマンドを使用すると、PARENTID -124が重複サブネットワークであり、CPOのWestZoneDWDMグループの下に存在することを確認できます。ここで、groupidは手順3から派生できるPARENTIDです。

コマンドの実際のフォントサイズは、指定した例とは異なる場合があります。

ステップ5：図に示すように、Oracle DBから該当する行を削除し、コミットします。

SQL> delete from domain_table where treenodeid=<TREENODEID>;

SQL>コミット；

```
SQL> delete from domain_table where treenodeid=870;

1 row deleted.

SQL> commit;

Commit complete.
```

注：ステップ4から、重複するサブネットワークのtreenodeidを取得できます。**commit**は必須コマンドです。

関連情報

既知のバグであることが推奨されます。CSCup57506（登録ユーザ専用）。

このバグは10.3ソフトウェア以降で修正されています。